

根っ子の会の観察日記

～根木内歴史公園:湿地の観察会(2019/3/16 実施)～

参加者: 10 名

今回は、3名の感想と写真を掲載します。

田んぼの畦に咲く白いタネツケバナは春を第一に感じさせてくれました。一方、池にはマガモのカップルがいます。もうしばらくすれば北へ帰るのでしょうか、まだまだ名残惜しそうに常駐のカルガモに交じっていました。マガモの♀とカルガモは同じように茶色っぽい色をしています。あれ？あれはカルガモか？マガモか？なんて言いながら比べられたのでおもしろかったです。アオジもまだ沢山アシの藪にもぐっていて、朝は声が聴けただけでしたが、昼近くなるとさかんに飛び出してきました。アオジは何時頃北へ帰るのでしょうかね。



マガモのオス



マガモのメス



カルガモ

1年半ほど前に参加したが、久しぶりの参加で初めての参加と言えよう。何を観察するかよく把握しないうちの行動になったが、身近の野草・花、樹木、野鳥など気づくものを参加者と一緒に観察し感想を述べあう形である。難しく捉えずに参加することのようだ。

普段ほぼ興味のないものの観察のために、特に野草花などは足で踏みつけていたものがその対象物であり多少戸惑った。一口に雑草と考えていたものに、ひとつひとつ名前があり、当たり前であるが改めて認識した。



ホトケノザ

とくに「たねつけばな」の命名に興味を持った。「タネツケバナがある。」と参加者から声はかかったが、10 cmほどの白くて小さく可愛い花であるが、さほど目立つでもなくほぼ見向きしない花と思えた。田起こし前の田んぼなどにあり、稲の種もみをまく時期に生えて花が咲くために、この名が付いたとのことである。図鑑にもそのような解説があり田舎で育った小生は、小さいころ恐らくこの花を見ていたのではないかと感じ入った次第である。



タネツケバナ (2012年4月撮影)

一昨年3月の記録と見比べての比較

- ・ ヤブソテツは一昨年は記録がない。当時は気付かなかったのか、なかったのか。過去の記録があればチェックしてみたい。
- ・ ミゾソバの幼芽（若葉と言うのか）の記録は一昨年にも有り。今年もカメラに収める御仁有り。何が彼をしてそうさせたか。観察者のビヘイビアには興味がわく。
- ・ 赤ガエルの卵塊が一昨年の記録にある。今年も根っ子の会のメンバーが先日、一塊を保護したはずだが消失していた。この2、3年の変化は赤ガエルの減少を印象付けるが、専門家は何を根拠に減少等の変化を結論付けするのだろうか。
- ・ アトリの記録があるし、群を成して飛翔する様を思い出した。今年も葦原を飛び交うアオジは印象が強かったがアトリは見なかった。近辺の様子はどうなるものだろう。



ヤブソテツ



ミゾソバの幼芽

4月の湿地の観察会は、、、

4月20日(土)

9:30 駐車場集合 (小雨決行) です。

遅れての参加、早めに帰宅など自由ですので、お気軽にご参加下さい。
今後は**基本的に第3土曜**に開催ということになりました。

お問い合わせは下記メールまでお願いします。

akihitoaizawa@gmail.com (相澤)